

葛根湯と麻黄湯

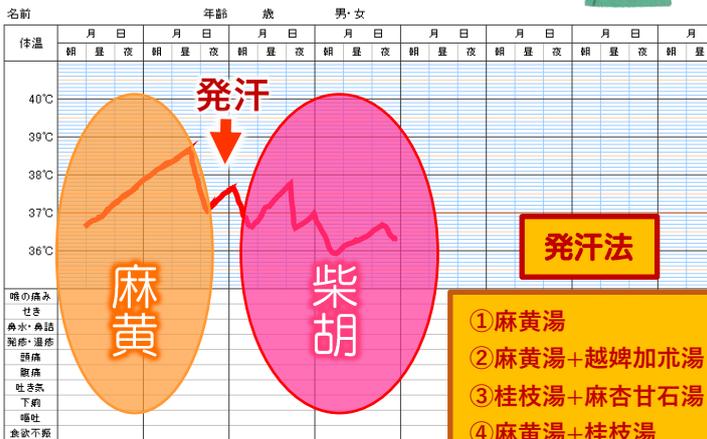
葛根湯 (かっこんとう)

カゼの初期に使う事は有名ですが、発熱があつて汗をかいていないことが条件です。
汗をかいていたら桂枝湯です。

カゼの初期とは「自分でカゼをひいたかも知れない」と思った瞬間です。そう思ったら、葛根湯を熱いお湯で2包飲みます。体がジワッと温まって汗をかいたら内服終了です。2包飲んで汗をかかないときは3時間後に再び葛根湯を2包飲みます。

カゼ以外で使うときは、上半身(胸から上)の炎症に用います。鼻炎(鼻カゼ)、結膜炎、角膜炎、中耳炎、乳腺炎、リンパ節炎などです。皮膚科では、じんましんで使います。後頭神経痛などにも使われます。

※葛根湯には「麻黄」という生薬が含まれます。これを飲むと、胃にさわる、動悸、嘔気などが起きる人がいます。そういう場合は無理しない方が賢明です。



麻黄湯 (まおうとう)

麻黄湯は、お子さんの発熱時の漢方薬として知られています。発熱した、汗をかいていない、まだ元気があるという条件が大切です。

ダラダラと飲まずに汗をかくまで、2-3時間おきに(寝ている時間を除いて)飲みます。

軽いカゼだと、3、4回内服した時点で発汗、解熱します。これを一度経験すると、「困ったときに何とか飲ませてみよう」というモチベーションになります。

お子さんですから、全量しっかり飲めなくても、処方された量の1/3でも1/4でも飲めれば上出来です。うまくいけば、その内服量で発汗、解熱することがあります。

麻黄湯はもともと、喘鳴、鼻閉などに使われていました。ですから、咳、鼻汁があれば1日2回、3回と飲むことが可能です。特に赤ちゃんの鼻づまりには有効です。うちでは、生後1ヶ月から麻黄湯をなめてもらっています。



カゼのときの葛根湯と麻黄湯

① 葛根湯



⑫ 麻黄附子細辛湯



脈：浮

手指をそっと皮膚に乗せるだけでドクドクと脈を触れます。こういう場合は葛根湯、麻黄湯が使えます。

浮：医師の爪床部がピンクのままで触れる
沈：医師の爪先が白くなるまで押しさないと触れない

お知らせ

休診のお知らせ 9月2日(土)、13日(水) 都合により休診します

岐阜市の漢方外来 9月9日(土) 16日(土) 時間: 14:00-17:30 場所: 中島小児科(岐阜市健康東町2-1) ※すべて「院外処方」です。

小児夜間急病センター当番日 9月1日(金) 時間: 19:30-22:30(受付) 場所: 岐阜市民病院